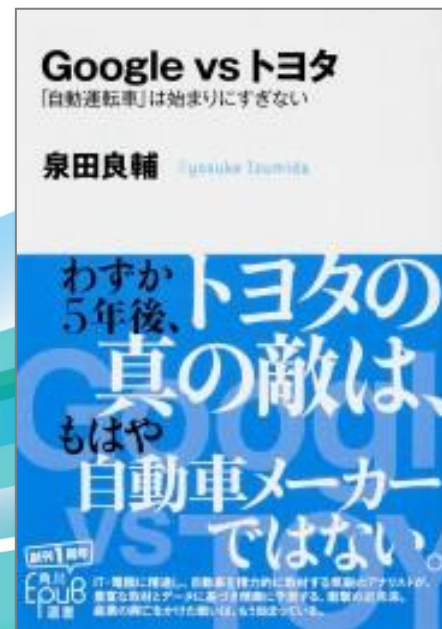


# Google vs トヨタ

「自動運転車」は始まりにすぎない

120430073 中村 隼大



# 文献紹介

## Google vs トヨタ

「自動運転車」は始まりにすぎない

著者：泉田良輔

出版社：角川EPUB選書



# 自動運転車とは



喜ばれる  
多くの人にとって便利

世の中の仕組み  
そのものを変えるきっかけ

GoogleがICTで実現  
しようとしている

# 自動運転車とは 世の中の変遷



# 自動運転車とは

都市ビジネスを狙っている企業

Google amazon



 TOYOTA

ハードウェア

エネルギー

異種格闘技戦

ICT

# 電気製品の競争領域

日本の電機メーカーが  
アップルに敗れた理由

1. 競争のルールに  
適応できなかったこと

2. 競争のルールをシフトされ  
たこと

オンライン



・現代のiPhone



・iPod(第1世代)

ハードウェア



・フラットパネルテレビ  
・デジタルカメラ



オフライン

# 自動車産業の競争領域

↑ 公共スペース

## ②次世代自動車

- ハードウェアの安全性の競争
  - ・ デバイス開発
  - ・ デバイス調達
  - ・ デバイス組み合わせ

## ①ガソリン・ディーゼル車

- 燃費効率の向上
  - ・ エンジン性能
  - ・ 技術の組み合わせ
- 環境規制対応の競争

自動運転 ←

→ マニュアル運転

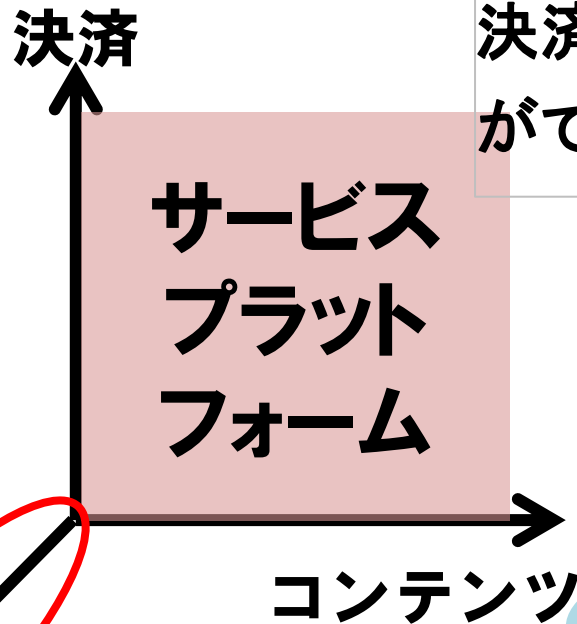
## ③次々世代自動車

- システムの安全性の競争
  - ・ ICTでのハード制御
  - ・ エネルギー調達
  - ・ インフラ整備

↓ 管理スペース

(オンライン) : 自動車とネットワークが接続

# 競争領域をシフトさせた事例



グローバルで競うには  
決済能力を持ち、コンテンツの取り扱い  
ができることが大前提

アップルは  
iPod x iTunes  
で参入障壁を高めた

ハードウェア x ICT

新しいユーザを獲得

ハードウェアのみ  
⇒デザインが均一  
⇒差別化が難しい



# 普及させるためには…

- ①より小型で**モバイル型**である
- ②**移動通信システム**に接続できる
- ③決済機能を持ち、コンテンツを整理して配信する**サービスプラットフォーム**を持つ



# 普及させるためには…

2020年 東京オリンピック



都市デザインのショーケースになる

**解決する点**（インフラを海外に売るために）

- 長期にわたる資金調達をどうするか
- インフラを運用する際のエネルギー調達をどうするのか

# 日本企業が生き残る道

## カテゴリー1 覇権を目指す

推定  
事業  
規模

数兆円以上

リターン

成功すれば20年間にわたり  
世界の覇権を握ることができる

リスク

各国を代表とする企業との競争  
負ければ企業規模が大きくとも存在意義を  
問われる状況も

# 日本企業が生き残る道

## カテゴリー2 覇権下の競争のルールを最大限活用する

推定  
事業  
規模

数百億～数兆円

リターン

第三者による覇権下で、  
事業によってはグローバルナンバー1  
になることも可能

リスク

競争に負ければ、事業売却もしくは縮小  
最悪の場合には、会社継続に疑義がつく

# 日本企業が生き残る道

## カテゴリー3 材料や部品の開発・製造 に徹する

推定  
事業  
規模

数十億～数千億円

リターン

事業ポートフォリオの分散見合いのリターン

リスク

事業ポートフォリオの分散見合いのリスク

# 日本企業が生き残る道

現在の自動車産業では

日本の自動車メーカー：カテゴリー1

カテゴリー2,3の品質の良い製品や高い技術に支えられている

**鶏と卵  
の関係** お互いが連動して  
競争優位を確立してきた

これまで築いてきたバリューチェーンに加え、  
ICT領域での工夫が必要

**2020年 分岐点**

---

**ご清聴ありがとうございました**